

千葉県ユニセフ協会機関誌

ともだち

第49号

2020年9月発行

石けんと水を、すべての子どもと家族に

～新型コロナウイルスから身を守る手洗い～

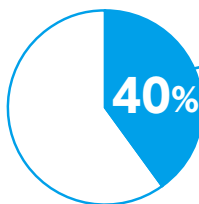
バングラデシュ ロヒンギャ難民キャンプ



© UNICEF/UNI 315490/ Himu

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、もっとも基本的で安価な方法は、せっけんを使って頻繁に手を洗うことです。しかし、手洗いに必要な水や衛生設備は、誰もが簡単に手に入るものではないのです。

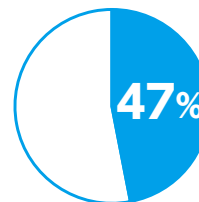
世界の人口



自宅で石けんと水で
手を洗うことができない人の数

30億人

学齢期の子どもが通う学校



石けんを使った手洗い施設がない学校

9億人の子どもに影響

(日本ユニセフ協会ホームページより)

(写真左上) コックスバザールのフットパロン難民キャンプにあるユニセフが支援する学習センターで、石けんで手を洗うロヒンギャ難民の子どもたち

「細菌が付着しないように手を洗うの。だって細菌のせいで、病気になったり、死んでしまったりすることさえあるんだから」

(写真右) ヨルダンの小学校で正しい手洗いの方法を学ぶダリーンちゃん(6歳)

手洗いは新型コロナウイルス感染症だけでなく、風邪やインフルエンザなどの様々な感染症や下痢、肺炎から子どもと家族を守ります。

世界のすべての人が家庭、学校、医療施設で石けんを使った手洗いができるように、ユニセフはWHO(世界保健機関)、各国政府やパートナー団体とともに活動しています。

ヨルダン



© UNICEF/UNI313299/Matas

CONTENTS

- 1 石けんと水を、すべての子どもと家族に
- 2～3 新型コロナウイルスの危機はすべての子どもの危機
- 4 役員一覧・取り組み紹介
- 5 役員からのメッセージ
- 6～7 特別寄稿～ジャーナリスト下村靖樹氏～
- 8 ユニセフ国際理解講座
- 9 活動ファイル
- 10～11 ユニセフ活動のこれから
- 12 ご協力ありがとうございました

INFORMATION

千葉県ユニセフ協会

月～金 10時～16時(祝祭日休み)

〒264-0029 千葉市若葉区桜木北 2-26-30

コープみらい 千葉エリア桜木事務所 本館

TEL: 043-226-3171

FAX: 043-226-3172

Eメール: info@unicef-chiba.jp

ホームページ: www.unicef-chiba.jp



↑ ホームページはこちら

ACCESS

- ★JR都賀駅東口下車 徒歩約15分
- ★モノレール桜木駅下車 徒歩約5分



MAP

千葉市若葉区桜木北2丁目26番30号
コープみらい 千葉エリア桜木事務所 本館

新型コロナウイルスの危機はすべての子どもの危機

2020年初めから急速に広がり世界的大流行（パンデミック）となった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）。世界中で1,600万人以上が感染し、65万人以上が命を落としています（7月28日現在）。毎日、国内のニュースでも感染症について報道が続いていますが、世界ではどのような状況が起きているのでしょうか？アフリカの子どもたちは大丈夫なの？ユニセフはどんな活動をしているの？日本ユニセフ協会、WHOのホームページから紹介します。

世界の状況（2020年7月28日時点）



国別ではアメリカの感染者が420万人と最も多く、ブラジル（241万人）インド（148万人）ロシア（82万人）となっています。数はアメリカやブラジルと比較すると少ないですが、アフリカ、南アジア、中東地域で感染者数が増加しています。これらの地域には自然災害、気候変動、政治や経済の状況によってすでに人道危機に直面していた国が多く、感染拡大により新型コロナウイルス感染症以外の様々な問題が起こっています。

←色が濃い国ほど累計死者数が多い。最も濃い色は死者が1万人を超える国
Source: World Health Organization <https://covid19.who.int/>
WHO Coronavirus Disease (COVID-19) Dashboard 2020年7月28時点

新型コロナウイルスに対するユニセフの行動指針

- ①子どもの健康を保つ
- ②子どもたちの継続した学びを支援する
- ③子どものいる家庭を支援する
- ④暴力、搾取、虐待から子どもを守る
- ⑤弱い立場に置かれた子どもに水と衛生の支援を提供する
- ⑥難民や移民の子ども、紛争の影響を受ける子どもたちを保護する



© UNICEF/UNI314608/Desjardins

コンゴ民主共和国に到着したユニセフの支援物資。感染予防のための衛生用品等が含まれている。（2020年3月26日撮影）

世界的な人道支援計画 ～途上国などの脆弱な国々の感染拡大を防ぐ

ユニセフは、人道危機が起きている国々におけるパンデミックへの対応に焦点を当てて取り組んでいます。特に、保健、栄養、水と衛生、教育、保護へのアクセスを確保し、感染を防ぎ、子ども、女性、弱い立場に置かれた人々への影響を減らすことを目標に、2020年末までに以下を目指しています。

- 22億人にCOVID-19の予防に関するメッセージを提供する
- 5,600万人に安全な水と衛生用品を提供する
- 230万人の医療スタッフが感染予防・コントロールに関する研修を受ける
- 440万人の生後6-59カ月の子どもが急性栄養不良の治療を受ける
- 8,950万人の子どもと女性がユニセフが支援する保健施設で保健・医療サービスを受ける
- 3億人の子どもが遠隔授業或いは家庭学習の機会を得る
- 2,400万人の子どもと保護者に地域に根差した精神保健・心理社会的支援を提供する
- 522万人が性的搾取や虐待を通報する制度を利用できるようになる
- 4,100万世帯が基本的なニーズを満たすための現金給付を受ける

世界各地で支援活動に携わる日本人職員

世界各地のユニセフ日本人職員も新型コロナウイルス感染症に対応し支援に取り組んでいます。日本と同様に学校が休校となり都市封鎖となった地域において、どのように教育支援・保健衛生の支援を行っていくかは、体制が整っていない地域が多いだけに様々な困難があります。それぞれの国・地域の状況における新型コロナウイルス対応の報告と、日本の皆様へのメッセージを、日本ユニセフ協会のHPにてご覧いただけます。

世界各地で支援活動に携わる日本人職員

日本ユニセフ協会ホームページ
<https://www.unicef.or.jp/news/2020/0068.html>



① ユニセフ東部・南部アフリカ地域事務所



岡本 啓史さん

学校が閉鎖される中で、子どもたちの遠隔教育を支援

② ユニセフ・レバノン事務所代表



空尾 雪江さん

手を取り合って、山場を乗り越えていきましょう

② ユニセフ・レバノン事務所



四居 美穂子さん

しっかりと一緒に感染予防をしていきましょう。

③ ユニセフ・ジャマイカ事務所代表



筆島 真理子さん

感染予防対策とともに、社会的に弱い立場にある子どもや女性への支援を

④ ユニセフ・セルビア事務所



西 光生さん

「誰一人取り残さない」イノベティブな支援を提供

⑤ ユニセフ・ミャンマー事務所代表



功刀 純さん

少数民族の子どもたちにも、感染予防の情報を届けるために

⑥ ユニセフ・エチオピア事務所



高橋 逸郎さん

一人ひとりができることをすることがとても大切

⑦ ユニセフ中東・北アフリカ地域事務所



木多村 知美さん

不安に思うお子さんとお話するコツ

⑧ ユニセフ・マラウイ事務所



中村 友香さん

ラジオ放送やプリント配布などの工夫で、すべての子どもに教育支援を届ける

⑨ ユニセフ・キルギス共和国事務所

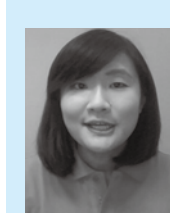


加藤 真理子さん

中村 恵理さん

子どもの学ぶ機会を支え、正しい手洗いの子ども向けアニメを提供

⑩ ユニセフ・カンボジア事務所



吉川 美帆さん

「子どもたちの心のケアを継続的に支援」

カンボジアでは学校閉鎖・休校や観光業への打撃による収入の激減による家庭内での虐待、暴力の拡大が深刻です。子どもたちへの心のケアを国の保健省としっかり連携し支援していきます。日本のみなさんも、子どもたちと過ごす時間を大切にしてください。

—新型コロナウイルス緊急募金ご協力をお願い—

新型コロナウイルス感染症。今は世界中が同じ問題と戦っています。千葉県ユニセフ協会は、手洗いの大切さを広める活動、緊急募金への取り組みなどを私たち一人一人のできることと位置づけ活動していきます。ご協力よろしくお願い申し上げます。



千葉県ユニセフ協会ホームページ
<https://www.unicef-chiba.jp/1082>

千葉県ユニセフ協会 役員紹介

敬称略(2020年7月1日現在)

県協会役職	お 名 前	役 職 名
顧 問	森田 健作	千葉県知事
顧 問	熊谷 俊人	千葉市長
会 長	徳久 剛史	国立大学法人千葉大学学長
副 会 長	稲村 幸仁	株式会社千葉銀行取締役副頭取
専 務 理 事	首藤英里子	生活協同組合コープみらい千葉県本部長
常 務 理 事	黒坂 典雄	千葉県青少年団体連絡協議会会長
常 務 理 事	鈴木 國夫	(公財)日本ユニセフ協会 顧問
理 事	伊藤 知	日本ボーイスカウト千葉県連盟理事長
理 事	伊藤 稔	(公財)ちば国際コンベンションビューロー代表理事
理 事	入江 康文	(公社)千葉県医師会会長
理 事	上西京一郎	株式会社オリエンタルランド代表取締役社長
理 事	大久保利宏	千葉県スポーツコンシェルジュ マネージャー
理 事	大澤克之助	株式会社千葉日報社代表取締役社長
理 事	佐久間英利	(一社)千葉県商工会議所連合会会長
理 事	佐々木博子	生活協同組合パルシステム千葉理事長
理 事	佐々木由佳	生活協同組合コープみらい理事
理 事	染谷 光男	キッコーマン株式会社特別顧問
理 事	高瀬 誠子	(一社)ガールスカウト千葉県連盟連盟長
理 事	夏目 誠	成田国際空港株式会社相談役
理 事	林 茂壽	千葉県農業協同組合中央会会長
監 事	熊谷 俊行	株式会社京葉銀行取締役頭取
監 事	眞田 範行	千葉県弁護士会会長

県協会役職	お 名 前	役 職 名
評 議 員	鮎川 耕史	毎日新聞社千葉支局長
評 議 員	石井 智康	石井食品株式会社代表取締役社長
評 議 員	伊東 健司	株式会社ペイエフエム専務取締役
評 議 員	小谷 裕	日本労働組合総連合会千葉県連合会会長
評 議 員	鬼木 洋一	東京新聞千葉支局長
評 議 員	梶原祐理子	日本放送協会千葉放送局 局長
評 議 員	上山 精一	千葉県生活協同組合連合会専務理事
評 議 員	河合 克美	株式会社千葉ロッテマリーンズオーナー代行兼代表取締役社長
評 議 員	坂本 雅信	千葉県漁業協同組合連合会代表理事会長
評 議 員	篠塚 泉	千葉テレビ放送株式会社代表取締役社長
評 議 員	徳永 澄憲	麗澤大学学長
評 議 員	長島 貴浩	千葉県小学校長会会長
評 議 員	名雪 雅美	農事組合法人郷園 総務部長
評 議 員	浜口 好博	イオンリテール株式会社取締役常務執行役員南関東カンパニー支社長
評 議 員	林 昇志	株式会社グリーンタワー社主
評 議 員	平賀 洋一	千葉県高等学校長協会会長
評 議 員	前田 伸	株式会社マザー牧場代表取締役社長
評 議 員	松田 京平	朝日新聞社千葉総局長
評 議 員	水越 雅信	DIC 株式会社常勤顧問 DIC 川村記念美術館館長
評 議 員	森本 航	ジェフユナイテッド株式会社代表取締役
評 議 員	八坂 應澄	中山身語正宗閣東別院誓願寺院主
評 議 員	谷沢 健一	NPO 法人谷沢野球コミュニティ柏理事長
評 議 員	山岡 孝次	株式会社ホテルオークラ東京ベイ代表取締役社長
評 議 員	横山 昌彦	千葉県中学校長会会長
評 議 員	吉田 和子	(公財)吉田記念テニス研修センター評議委員
評 議 員	吉山 隆晴	読売新聞東京本社千葉支局長
事務局長	福本 朋子	千葉県ユニセフ協会 事務局

取り組み紹介 (株)京葉銀行

当行野球部が地域の小学生野球チームと合同練習を実施しました

株式会社京葉銀行(頭取熊谷俊行)は、2020年2月15日(土)、地域社会への貢献活動の一環として、当行野球部と小学生野球チーム(稲丘ベアーズ)との合同練習を当行大宮グラウンドで実施いたしました。

青空の下、32名の小学生は、熱の入った指導を受け、守備や打撃、走塁など積極的に取り組みました。野球をすることの“楽しさ”にふれ、充実した時間となりました。また、千葉県ユニセフ協会の協力のもと、ネパールの遊び「サルバ」体験や水がめの重さ体験を通して、ネパールの子どもの貧困問題について学んでいただきました。当行は、“野球”というスポーツを通して、地域のスポーツ振興や青少年の健全な育成を後押ししていきたいと考えております。

〈京葉銀行HPより〉

【合同練習の様子】



トスバッティング



サルバ(ネパールの遊び)体験



水がめの重さ体験



集合写真



千葉日報に掲載されました

昨年に引き続き2回目の取り組み。野球部の皆さんの指導のもと稲丘ベアーズの子どもたちは、楽しそうに生き生きと練習していました。世界の子どもたちが大好きなスポーツを全力で楽しめるようユニセフは応援します。

役員からのメッセージ



千葉県青少年団体連絡協議会
会長

黒坂 典雄

日頃よりユニセフ活動にご理解、ご協力をいただきましてありがとうございます。

世界では3億8,500万人もの子どもが極度の貧困化で暮らしており、5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもは年間約540万人もいます。その原因の多くは、安全な水やワクチンがあり、適切なケアを受ければ防げることができるものです。

子どもたちは、世界の「宝」であり、未来への希望です。

千葉県ユニセフ協会では、創立以来、多くのボランティアの皆様と共に、パネル展や学習会などの広報・啓発活動、ハンド・イン・ハンドやラブウォークなど募金活動を積極的に実施しています。

世界の子どもたちが、健やかに成長し、必要な教育を受け、次世代の担い手として自立していくことができる希望に満ちた世界を目指し、今後とも、力を合わせて取り組んでまいりましょう。

これからも地域活動を通じて、ひとりひとりができることをつなげて、ユニセフ活動のネットワークを広げていきましょう。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



株式会社千葉日報社
代表取締役社長

大澤 克之助

こどもの頃、好きではない食べ物を残すと親に怒られました。「世の中には空腹でも食べ物を口にできない人たちがたくさんいる。もったいないことをしてはいけない」と。日本がまだユニセフの被支援国だった1960年代前半のころの話です。小学校の給食で出た脱脂粉乳はユニセフからの支援物資と後に知りました。独特の味は半世紀以上すぎて忘れることはありません。

被支援国から世界有数の支援国、豊かな国へと変貌した日本において、こどもの貧困が社会的課題となっていることには危機感を覚えます。地域メディアの社会貢献の一つとして2年前から、千葉日報福祉事業団はこどもの貧困問題に取り組む県内団体への助成活動を展開しています。

途上国をはじめとして、こども支援が必要なのは人道的見地からだけではないと思います。自国ファーストの風潮が強まる中で、急速に拡大した新型コロナウイルス感染症や気候変動、食糧問題など、地球規模の課題を解決するには、未来を担うこどもたちの健全な成長と質の高い教育が必要です。このたび、千葉県ユニセフ協会に参加する機会をいただいたのも何かの縁でしょう。微力ながら「恩送り」のつもりで取り組みたいと考えています。



生活協同組合コープみらい
理事

佐々木 由佳

この度千葉県ユニセフ協会理事に就任しました佐々木由佳です。

私がユニセフについて詳しく知ったのは子育て真っ最中の時でした。育児サークルのママ友達とユニセフについて学ぼうということで、地元ユニセフの方が来てくれたのがきっかけで世界で起きている現状を知りました。世界では5歳の誕生日を迎えられない命が多くあり、日本では当たり前で予防できる治療が当たり前ではない世界があるということを知り、胸が痛くなりました。1人でも多くの命を助けるために私に何ができるんだろうと考えるようになりました。

コープみらいでは「誰もが安心して暮らせる平和で持続可能な社会づくり」を目指しています。世界で起きていることを知り、募金の活動など私たちにできることを考え取り組みを進めています。一人一人の力は小さいけれど、みんなが集まれば大きな力になります。ユニセフの取り組みを様々な方と連携しながら、地域に広げ世界に笑顔を広げていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

ジャーナリスト下村靖樹氏にご寄稿をいただきました

アフリカが教えてくれた平和と命

写真・文 下村 靖樹

WHO(世界保健機構)の予測では、今後1年以内にアフリカでは8万3千人~19万人が、新型コロナウイルスで死亡するという。6月10日時点でアフリカ54カ国の死亡者は5,357人。これからその35倍以上の犠牲者が出るという計算だ。(全世界の死亡者数は40.1万人)しかしアフリカでは、その10倍を超える200万人以上が、毎年、様々な感染症で命を落としているのだ。そして犠牲者には、5歳未満の子どもたちも多く含まれている。

WHOのデータによると、三大感染症の「マラリア、HIV/エイズ、結核」だけで年間(2016年)153万3千人が死亡し、うち5歳未満の子どもは、マラリア・27万8千人(全体/40万8千人)、HIV/エイズ・5万7千人(全体/72万人)、結核・1万7千人(全体/40万5千人)、計35万2千人に達する。

さらに下痢症でも25万5千人(全体/65万3千人)が死亡し、他の疾病・事故や栄養不良に起因する合併症を加えると、年間170万人以上の乳幼児が、5歳の誕生日を迎えることなく死を迎えている。

下痢症など、治療薬やワクチンは必要とせず、ただ安全な水へのアクセスを確保し、衛生環境を改善すれば大半の命を救えるにも関わらずである。(WHO/CAUSE-SPECIFIC MORTALITY, 2000 to 2016)

その結果、乳幼児死亡率(5歳未満児の死亡率)は各大陸ワーストの1,000人あたり78人。同死亡率が1,000人あたり100人を超える6カ国は、全てアフリカのサハラ砂漠以南に集中し、ソマリア(122人)、ナイジェリア(120人)、チャド(119人)、中央アフリカ(116人)、シエラレオネ(105人)、ギニア(101人)となっている。(WHO/2018)
<https://data.unicef.org/topic/child-survival/under-five-mortality/>



感染症に苦しむ男の子(ウガンダ)

世界中が新型コロナウイルスとの戦いで一喜一憂している今も、既存の安価な治療薬や、清潔な水と生活環境さえあれば助かる小さな命が、次々と消えているのだ。つまりアフリカで生を受けた命は、まず5歳まで生き延びなければ、この世界に参加する権利すら得られない。そしてその生死を分ける要素は、生まれた家庭の生活環境、持って生まれた体力、そして運。その三つだけだ。

さらに5歳の壁を越えても、アフリカで生を受けた命には、厳しい試練が課せられる――。

20世紀半ばに多くのアフリカ諸国が宗主国からの独立を果たし、それぞれが独立国家として国際社会の一員となった。しかし独立後に起きたクーデターや内戦、近隣国との戦争、東西冷戦の影響により、安定した国家運営ができている国は非常に少ない。

特に近年顕在化しているのは、民族や宗教を原因とする対立である。独裁や汚職から生まれる経済・社会格差は激しく、諦念の底に悲しみを沈殿させ日々を過している人々は、時に何かをきっかけに爆発することがある。

その際問題になるのが、対立する組織や集団も、紛争の場合も、国内に存在することだ。国家間の戦争であれば、武器を手に戦うのは通常正規軍同士であるため、戦闘地域と非戦闘地域はある程度明確に分かれる。



避難民キャンプで生活する子どもたち(ソマリア)

しかし国内で紛争が発生した場合、自ずと人々は、どの勢力に自分が属するのかを選択しなければならない。そしてそれは、いずれかの勢力の敵となることでもある。要するに非戦闘員であっても紛争の当事者となり、敵勢力からは攻撃を受け、味方には協力を期待されるのだ。

そして古来、紛争が長引くと戦死した兵士を補填するため、徴兵年齢がどんどん下がっていく。特に勢力が弱い反体制側やゲリラでその傾向は強く、子どもたちは強制的に兵士へと仕立て上げられる。心身共に未成熟な子どもたちが兵士として徴発されると、戦闘で死亡するリスクだけでなく、体に障害を負ったり、栄養不足から成長が阻害されたり、拷問や洗脳、さらにはトラウマに心身を蝕まれてしまう。

私が長く取材を続けているウガンダの反政府ゲリラLRA(神の抵抗軍)は、村を襲撃しては子どもたちを誘拐し、ゲリラ兵士

に仕立て上げていた。最悪なケースとしては、戦闘訓練を受けさせた後、家族や友人などを子どもたち自身の手で殺させることもあったという。逃げ場をなくし絶望させることで、子どもたちの洗脳を強固にするためだ。

1991年から2012年まで内戦が続き、今もなお自爆テロが続くソマリアでは、一度も平和を知らない子どもたちもいた。長期間紛争下にある国や地域では、その最中に生まれ育った世代は、私たちが疑問に思わず享受している「人が死なない、殺されないことが普通の日常」を経験することなく成長するのだ。

国連の報告書「子どもと武力紛争に関する国連事務総長年次報告書2018」内で、ソマリアでは、イスラム武装勢力のアル・シャバブに1,609人が拉致され、さらにアル・シャバブ・国軍・警察により2,300人の子どもが徴発されたと報告されている。

(いずれも世界ワースト)

残念ながら、それは避けられない結果だ。なぜなら、現在ソマリア社会の中心にいる10代後半から30代前半の世代は、自身や家族、友人が突然殺されるかもしれない日常で育ってきた、元子どもたちなのだ。

「国の軍隊と異なる武装集団は、いかなる状況においても、18歳未満の者を採用し又は敵対行為に使用すべきでない」。2000年5月25日に国連で採択された「武力紛争における児童の関与に関する児童の権利条約選択議定書」の第4条1項に記されている言葉だ。

かみ砕いて言うならば、「国家もゲリラも、戦闘を行う兵士、兵士の生活や戦闘をサポートする要員として、18歳以下の子どもを使用してはいけない」というところだろうか。

(UNICEFのウェブサイトに、詳しい情報が掲載されているので、参照して頂きたい)

同条約採択20周年を迎えた今年5月に国連が出した声明には、「14万5千人以上の少年少女を軍隊および武装グループから解放し、何百万人の子どもたちの募集と使用を妨げてきた」と記されている。

その言葉は事実で、私も取材で救出された子どもたちを何人も見てきた。しかしそれでもなお、今も25万人以上といわれる子ども兵士が世界各地に存在し、中には自身が望んで紛争に参加する子どももいる。その理由は、プロパガンダなどで刷り込まれた兵士や武装組織への憧れ、家族を殺された悲しみや恨み、貧困にあえぐ家族を養うためだ。

以前インタビューさせてもらったウガンダの元子ども兵士の少年は、誘拐されてから6年間、原野でゲリラ兵士として過ごし、政府軍に救出されリハビリを受けた後、18歳になると自ら政府軍に入隊した。「やっと平和な社会に戻って来られたのに、なぜ?」という私の問いに、穏やかな表情で彼はこう答えた。「ゲリラ生活が長くて学校に行けなかったから、字も読めないし計算もできないんだ。僕が持ってるのは戦う技術だけだから——」。

新型コロナウイルスに脅威を感じた誰しもが、図らずも自分が何らかの形で世界中の人々と繋がっていると認識しただろう。人が生み出す負の感情も同じだ。ウイルス同様、人から人へと感染していく。アフリカだけでなく世界のどこかで流れる血や涙が、いつ世界中に広がっても不思議ではない。

現実的に、今すぐ世界から悲しみや憎しみを消し去ることは不可能だが、負の感情の拡大を止めるアクションを起こすことはできる。

鍵になるのは、未来を創る子どもたちの笑顔だ。私たち一人ひとりが、自分の手が届く範囲の子どもの笑顔を守ることができれば、それは平和な明るい未来への確実な一歩になる。



反政府ゲリラの脅威にさらされて生きる子どもたち
(コンゴ民主共和国)



ゲリラから救出された直後の子ども兵士
(コンゴ民主共和国)

ユニセフ国際理解講座

ジャーナリスト下村靖樹氏講演 「アフリカが教えてくれた平和と命」

16 平和と公正を
すべての人に



2月8日(土)に千葉市生涯学習センターにて今号に寄稿頂いた下村靖樹氏による講演会を開催しました。当日は74名の方が聴講され、13,005円の寄付を頂きました。また、運営に当たり、市原中央高校の2名の先生、7名の生徒さんに受付等のボランティア協力頂きました。

講演会では下村氏がジャーナリストとなるきっかけから、初めてアフリカを訪問し、強い衝撃を受けられたことや長期に渡って取材されているソマリア、ルワンダ、ウガンダについてお話され、アフリカの現状について理解を深めることが出来ました。

ルワンダでは現在は終結しておりますが、かつてツチ族とフツ族の紛争があり、大虐殺が行われ、何十万人もの人民が殺害されました。

下村氏はかくまっていた友人を殺害した罪で投獄されている少女を取材されました。その少女は友人をかくまっていることがばれ、その友人を殺すように責められ、仕方なく友人を殺害し、紛争後にそれがもとで投獄されたのです。その少女は友人を殺さなければ、自分も含めて殺される状況で、どうすべきだったかを我々に問いかけています。

下村氏の寄稿でも述べられていますが、ウガンダでもたくさんの子どもがゲリラに誘拐され、兵士とされています。子どもたちはゲリラから解放されても洗脳から感情を失い、死んだ魚の様な目をしていました。ウガンダ政府は解放された子どもたちを施設に入れ、3～6か月間のリハビリを進めています。子ども達は少しずつ笑顔を浮かべ、心を取り戻しています。

講演後には下村氏を囲んでの懇談会も行われ、様々な質問や感想・意見を頂きました。市原中央高校の生徒さんからは感銘を受けたとの感想を頂き、いくつかを紹介します。

- 実際に現場に行かれた下村さんのお話を聞いて、アフリカでどのようなことが起きていたのか詳しく知ることが出来、人の命の儚さ、価値の違いを実感しました。少しでも自分自身で平和と命について考え、行動していきたいと思いました。
- 身近な情報では知ることの出来ないアフリカの過去、現在を知ることが出来、勉強となりました。自分がどれだけ恵まれた環境で生活しているのかを改めて気づくことが出来ました。将来、もっと世界を知り、世界を変えたいと思います。
- 同じ人間なのに、住む地域が違うだけでこんなに環境や命の価値が違うのかと感じました。私と同年齢なのに兵士にさせられてしまう子や母親になっている子がいることが信じられません。「楽しい、うれしい、悲しい」などの感情を持てることが普通ではないことなのだと思います。



【講師プロフィール】

1992年に初めてアフリカを訪問し、「目を覆いたくなる残酷さ」と「無尽蔵な包容力」が同居する不思議な世界の虜となる。現在は、長期テーマとして「ルワンダ(1995～)」、「子ども兵士問題(2000年～)」、「ソマリア(2002年～)」を継続取材中。主に記事の執筆や講演

などを通じ、内戦や飢饉などのネガティブな話題だけではなくアフリカが持つ数多くの魅力や可能性を伝え、一人でも多くの人にアフリカへの親しみと関心を持ってもらう事を目標に活動している。

Yahoo! ニュース個人ページ

<https://news.yahoo.co.jp/byline/shimomuraya-suki/>



ボランティアとして協力してくださった市原中央高校のみなさん



下村氏、市原中央高校、ボランティアスタッフと記念撮影

活動ファイル

(2020年2月～2020年7月)

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、きやっせ物産展など数多くの出展予定のイベントの中止、また主催イベントも中止となりました。毎年開催している「ユニセフのつどい」についても、不特定多数の参加者が想定される講演会であることから、残念ながら中止となりました。



■栄町

●2月28日(金)～3月11日(水)

ふれあいプラザさかえ

ユニセフパネル展

【長谷部誠大使ロヒンギャ難民キャンプ訪問】



ふれあいプラザさかえ

■柏市

●7月8日(水)～20日(月)

リフレッシュプラザ柏内「喫茶室ココ」

ユニセフパネル展

【長谷部誠大使ロヒンギャ難民キャンプ訪問】



リフレッシュプラザ柏内
「喫茶室ココ」

■船橋市

●2月1日(土)

ふなばし市民活動フェア

パネル出展



フェイスビル5F

■千葉市

●2月8日(土)

ユニセフ国際理解講座 下村靖樹氏講演会

●2月15日(土)

京葉銀行 野球教室

●2月16日(日)

ちば市国際交流フェスティバル(中止)

●2月23日(日)

きやっせ物産展(中止)

●3月1日(日)

Chiba Winter Fes2020(中止)

●6月28日(日)

ホテルグリーンタワー幕張

ユニセフのつどい2020(中止)

●6月30日(火)～7月6日(月)

そごう千葉店地階 そごうギャラリー

国際協力パネル展

【長谷部誠大使ロヒンギャ難民キャンプ訪問】

●7月27日(月)～31日(金)

きぼーアトリウム

ユニセフパネル展

【長谷部誠大使ロヒンギャ難民キャンプ訪問】

■館山市

●3月18日(水)

安房高等学校人権教育講演会(中止)



きぼーアトリウム



千葉県・ちば国際コンベンションビューロー・JICA千葉デスクと共催
国際協力パネル展を開催しました



～ユニセフ活動のこれから～ 一人一人ができること

千葉県ユニセフ協会では新型コロナウイルス拡大を受け、2020年3月に予定していた理事会・評議員会は書面評決とし、その他の活動も、延期・中止が続いています。6月より、オンライン会議を導入し、ボランティアさん同士の情報共有、今後の活動についての打ち合わせを開始しました。オンラインによる打ち合わせは事務局も含め慣れないことも多々ありますが、今まで忙しくて打ち合わせに出られなかった方が参加できたり、県内の離れているメンバー同士も交流できたりするメリットもあり、新たな可能性を感じています。まずは **ステップ0** ボランティア交流・勉強会、そして **ステップ1** 外部の講師によるボランティア勉強会 **ステップ2** として外部講師を依頼し一般の方に参加募集をかけるオンラインセミナー・オンライン講演会へと進んでいきたいと思っています。今後も一人一人ができることを大切に、世界の子どもたちへの支援につなげてまいります。

ステップ0 ボランティア交流・勉強会

日時:6月26日(金) 10時30分～12時10分 参加者20名

新型コロナとユニセフ活動について 千葉県ユニセフ協会 活動方針について

日本ユニセフ協会やWHOのホームページをもとに、新型コロナウイルスに対するユニセフの活動状況や世界の感染の状況について学び、意見交換しました。

～オンライン会議に参加して～



佐倉・八千代ブロック
鮫田 信夫

「新し物好き」の私でも、今回初めて世の中の流れの中に身を置くような事を経験することになるとは思いませんでした。パソコンを始めたのが27年くらい前かな。当時は文書を作る位で、電話の代わりになるなんて考えもしなかった。10年くらい前かな、初めてパソコンで今で言うスカイプ、やってみました。なかなか画像は粗いし、声も聞こえずらく、続かなかったです。しかし、通信社会の発展は目覚しく、今年は新型コロナウイルスにより、私も、すべてのボランティアが中止となり、世の中の流れに沿うような生活を強いられてしまいました。社会は、在宅ワーク等により、テレワークが主流となり。通信機能が一段と発展し、web会議ができるようになりました。会議用のアプリをダウンロードするのはよいが、どのアプリが一番安全なのかやはり、年を取ると考えてしまう。若い人たちの指導の元、今こうしてアプリを無事ダウンロードし、人並みにweb会議に参加し、家に居ながらにして会議ができるなんて、感激です。実際にあって話し合うことも楽しいですが、時にこんな会議もいいのかな、と思います。このような会議に参加でき、あーまだ、大丈夫かな。世の中に少しはついていけるかな、と思う日々です。



東葛ブロック
伊東 栄美子

1回目のお試しオンライン会議は、ドキドキと緊張で終わってしまいました。タブレットは電源ONなのに、時刻になっても暗いまの画面。画と声を届けるまでに時間がかかりあっという間に設定の40分間が過ぎてしまいました。みんなと会議なんて出来るのか不安な出だしでした。アナログな私には、オンライン会議なんて自分には縁のないTVや新聞で見聞きし手を出すものではなかったのに、やれば出来るかもに変わりました。家に居ながらブロック代表者だけでなく多くのメンバーの顔を見ることが出来ること、移動時間がなく(私の)遅刻がなくなることが良いなと思っています。ただ、スマホタブレットパソコンさえあれば何処にいても参加できるという利点が、大袈裟ですが拘束されている様な嫌な感じをおぼえます。画面越しの顔は、硬い表情の人が多いですよ、冗談や無駄話もある明るい打合せが懐かしいけど、操作にも雰囲気にも画面越しにも早く慣れたいと思います(景色となる部屋も片付けたいと)。

(公財)日本ユニセフ協会と26の地域組織の情報共有

6月25日(木) 9時30分～12時30分 全国地域組織情報交換会

参加者 40名

新型コロナウイルスの影響で、全国の地域組織の活動が制限され、日本ユニセフ協会主催で行われる予定だった学習会講師研修会も中止となりました。そのような中、それぞれの地域の状況を共有し、日本ユニセフ協会からはユニセフの緊急支援の様子や今後の活動指針、学校等への学習会開催についての注意事項やオンライン授業の紹介などがありました。「子どもの人権を守る、SDGs誰一人取り残さない」ことが大切です。

ステップ1

外部講師によるボランティア勉強会

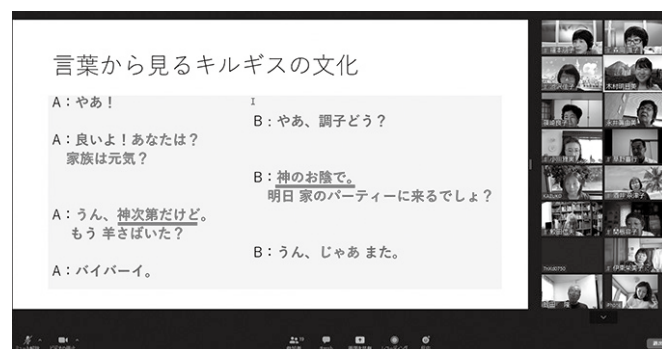
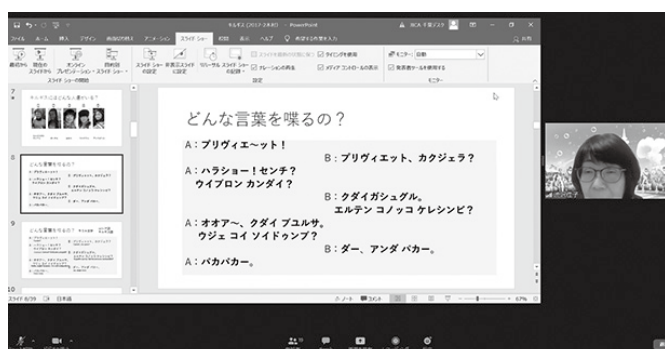
日時:7月22日(水)10時20分~12時

参加者18名

キルギスを知ろう オンライン交流・勉強会

講師:JICA千葉デスク 木村 明日美さん

小学校の時、海外のごみの山の映像を見て驚いた木村さん。自分は当たり前のように学校に行っているけれど世界には学校に行くことが出来ず、ごみの山で働いている子どもがいることに大変な衝撃を受けたそうです。その後大学時代にフィリピン、ガーナを訪れ開発途上国の現状を肌で感じました。これらの国では日本の車がたくさん走っていることにも驚きました。何か世界に役に立ちたいという思いから自動車整備士のお仕事につきました。そして、2019年秋までの2年間、JICA海外協力隊として、キルギスの学校で先生として支援を行い日本に戻ったばかりです。キルギスは旧ソ連で遊牧民族。どんな言葉を喋るの?という紹介をオンラインで参加者を指名し劇のようにやってもらうなど、「さすが!先生!」と、参加の私たちもオンラインだけれど楽しく理解を深めることができました。この会話に沿って、キルギスの文化の紹介など説明がありました。



次にキルギスに関して、いくつかの問題が提示されました。

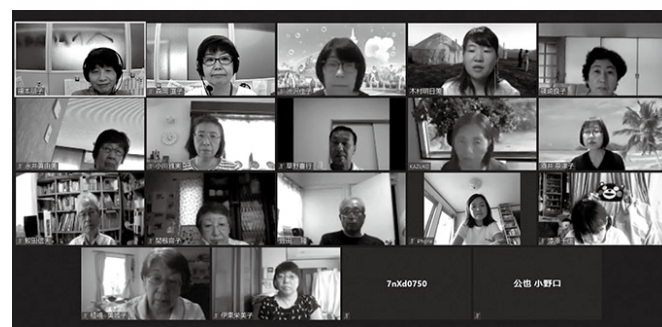
- ①経済の問題…低所得 外貨依存 借金
- ②水と衛生…上下水道の老朽化 不衛生・プライバシーのないトイレ ごみの分別がされない 大気汚染世界ワースト13位
- ③誘拐婚…法律では禁じられているが現在も続く大きな問題



キルギスの2年間の活動を終えて、今思うことは、現地にもう一度行き、ジェンダーの問題に取り組みたいということだそうです。現地に行って学んだことをもう一度勉強しながら、新たなステージに進んでいく木村さんを私たちも応援したいと思います。

参加者からの様々な質問に答えていただきながらあという間の100分が終了しました。

今後は、キルギスでの具体的なJICA海外協力隊としての活動内容や、キルギスに住む方と実際にオンラインでつながる勉強会を開催したいと思います。



各自自宅から参加できるZoomによる勉強会
18名のスタッフが参加しました

ご協力ありがとうございました

2020年1月～6月末まで

* 千葉県ユニセフ協会コード番号で振り込んでいただいた方については6月末分まで、県協会に直接持参していただいた方や報告を受けた方については7月末分までを掲載させていただきます。
個人ご協力者のお名前の掲載は控えていただきました。

●一般募金

ガールスカウト千葉県第64団、ガールスカウト千葉県第48団
生活協同組合コープみらい千葉県本部
ふなばし市民活動フェア、栄町立栄中学校

●新型コロナ緊急募金

カレンダー募金、桜木事務所

●アフリカ緊急募金

下村靖樹氏講演会

●外貨・使用済み切手

生活協同組合コープみらい千葉県本部
千葉県退職女性教職員の会安房支部長狭部会
株式会社NIPPO、栄町社会福祉協議会、市原中央高等学校
株式会社千葉銀行、浦安市国際センター



栄町立栄中学校

ユニセフ募金にご協力を

ご連絡下されば振込用紙をお送りします。
お振込みの際は、通信欄に【K1-120 千葉県ユニセフ協会】とご記入ください。

外国コイン・使用済み切手を集めています

国内で換金できない外国コインは、「ユニセフ外国コイン募金」として子どもたちの支援につながります。

また、使用済みの切手を集めて募金としています。イベントにご持参いただくか、千葉県ユニセフ協会にお送りください。

7月17日(金)～8月9日(日)
千葉市男女共同参画センターでは「学校に通えない女の子たち」をテーマにユニセフのパネル展示やDVDの上映をしました。



市原中央高校インターアクトクラブの皆さんが校内で外国コイン募金の声かけをしてくださいました。

全校生徒に向けた
配信メール

こんにちは。インターアクトクラブです。

みなさんは外貨を持っていますか?もし使わない外貨をお持ちならばその外貨でコロナによって苦しんでいる貧しい人々を救いませんか?

現在、世界中のあらゆる国がCOVID-19と闘っています。世界全体の感染者数は、1000万人を上回ってしまいました。感染予防策はどの国でもソーシャルディスタンスやマスク、石鹸による手洗いや消毒が必要不可欠です。残念ながら、このような感染予防策を取れる度合いは、国や地域により大きな差があります。たとえば、難民キャンプなどでソーシャルディスタンスを取ることは難しく、いったんウイルスが入り込めば、瞬間に感染が広がる可能性があります。また、人口の40%にあたる30億人は、自宅の手洗いをすることができず、世界の学校の47%には手洗い設備がありません。予防接種が中断し、子どもたちが別の病気の危険にさらされることも増え、減少を続けてきた5歳未満児死亡率が、上昇に転じているのではないかと危惧されています。休校により学習だけでなく、給食も得ることが難しい状況です。日々の食事を給食に頼っている子どもは3億6850万人にのぼるとされ、栄養不良の蔓延も危惧されています。子供だけでなく家族を養う大人にも影響を及ぼしています。自粛により仕事できる機会が減りさらに貧しくなってしまう。また、日本同様、経済活動が止まったことの影響は大きく、児童労働に従事せざるを得なくなる子どもが増えるの見込まれ、最貧困層の子どもたちに壊滅的な影響を与えかねないと、ユニセフは対策に奔走しています。

そして、ユニセフでそのような人々を救うために外貨募金という活動を行っています。私たちインターアクトクラブでもこの活動に参加したいと思います。外貨を持っている方ももし良ければ募金にご協力よろしくをお願いします。

市原中央高等学校インターアクトクラブ



インターアクトクラブの皆さん



外国コイン募金贈呈式

お知らせ 今後の予定

オンライン開催 Welcome UNICEF

知ることから始めよう「スポーツの力」トークイベント



大山加奈氏

10月17日(土) 14時～16時

参加無料

日本のバレーボール界をけん引してきた大山加奈さんに「スポーツの力」についてご自身の経験を交えてお話しいたします。またJICA海外協力隊としてチュニジアで支援活動を実施した深林真理さんに、開発途上国でのスポーツの現状についてお話しいたします。

お申込み方法など詳細は千葉県ユニセフ協会ホームページ・Facebookでご案内します。

賛助会員募集

千葉県ユニセフ協会賛助会員へのご協力をお願いします。
2019年度 会員 個人:103名(123口)
企業・団体 13団体(300口)

会費 1口2,000円(個人1口以上、企業・団体5口以上)

ボランティア募集

イベント企画・運営、機関誌編集、学習会講師等
出来ることを、出来るときに、楽しく一緒に活動しませんか。
お気軽にお問い合わせください。



◀千葉県ユニセフ協会
ホームページ

千葉県ユニセフ協会

検索